

2018年度 第2回 精神看護学セミナーレポート

平成31年3月16日に精神看護学セミナーを開催しました。精神科病院や総合病院、訪問看護ステーション、県や市町村などから49名の方々に参加いただきました。

第1部では、「自殺未遂患者に対する救命救急センターでのケア」について3名のシンポジストに報告をいただきました。まず、済生会滋賀県病院の木村里美さんから、救命救急センター看護師に対するTALKの原則を使った自殺未遂患者対応の教育や、搬送されてきた自殺未遂患者を地域の相談支援事業につなぐための院内での仕組みづくりについてお話がありました。次に、福島県立医科大学附属病院心身医療科病棟の西東智恵さんより、「自殺未遂患者に対応する救命救急センター看護師の態度に変容をもたらす教育プログラムの試み」と題する修士論文の報告があり、TALKを使った教育プログラムが、救命救急センタースタッフの自殺未遂患者の理解や積極的な態度に変化をもたらすことが述べられました。滋賀県立総合病院の野田智子さんより、救命救急センターで行った研究から、過量服薬をした患者とER看護師の体験をTALKの原則に照らし合わせて報告していただき、救命救急センタースタッフの関わりの可能性について述べていただきました。

第2部は、「地域との連携の実際」と題し、地域に送り出す病院側の木村さんと、自殺対策センターでの活動していた野田さんから、連携したケースへの関わりについて具体的に紹介していただきました。

ディスカッションでは、自殺未遂患者に誠実に向かい気持ちを聴いていくことの大切さを再確認でき、福島県での今後の自殺未遂患者への対応や教育についての意見交換が行われました。

